

「改革」が「カイカク」が

前衆議院議員
拓殖大学客員教授
城内 実

なぜ郵政民営化に反対したのか、と今でも地元の支援者に聞かれる。しかし、それも最近ではごく一部で、昨年10月の民営化移行後は、なぜ政治生命を賭して反対したか、大勢の方が理解して下さるようになった。

私は、現職の国会議員当時に1年生議員として小泉純一郎氏の総裁派閥である森派に所属していた。郵政民営化については全く予備知識もなく、郵政民営化に反対するものは、小泉・竹中改革に反対する族議員や抵抗勢力と信じていた。

ところが、当選1年後の今から3年前、2期生の先輩議員Kさんから郵政問題の秘密の勉強会があるから参加しないかと誘われた。私は、安倍晋三幹事長代理（当時）から、大勢の1年生議員がいるにもかかわらず、さまざまな議連や勉強会、党改革本部の事務局長や事務局次長を直接頼まれたので、既定路線の郵政民営化問題については、時間的な余裕がないと言って丁重に断った。

それにもかかわらず、三顧の礼で1年生議員の威勢の良い仲間を連れて勉強会に参加してくれと言われた。しかたなく、同期のF君やE君、同じ派閥のM君などを誘った。その時は、私をこの

郵政勉強会に、私を勧誘したKさんが本会議での投票前日までテレビの前で反対のシュプレヒコールをあげながら、当日の本会議場でまさかの賛成票を投じるとは思いもよらなかった。運命とおもしろいもので、私がK先輩から言われて誘った3名の内、2名はみごとに反対票を投じ、残る森派のM氏は父親から投票直前に説得されてやむなく賛成票を投じ、泣いて我々に詫言した。

私は、郵政民営化問題を一般の自民党の国会議員よりもはるかに多くの時間をかけて勉強した。百歩譲って郵政を民営化するにしても、なぜ旧電電公社や国鉄のように、三事業一体で東西南北に分けて民営化できなかったのか。

それは、友人の関岡英之氏がこれまで何度も指摘したように、アメリカの「年次改革要望書」のみならず、アメリカの某勢力が積極的に日本の郵貯・簡保合わせての約350兆円近くを手中におさめようとしたからである。郵便事業は構造的な赤字であるから、赤字部門は切り離して一番美味しい簡保と郵貯資金を運用させてくれということである。

郵政が完全民営化すれば、国民は郵政問題について全くコント

ロールでなくなる。なぜならば、民営化すれば、郵便料金を上げる下げるとか、サービスをどうするかは、いみじくも竹中平蔵大臣（当時）が国会で何度も答弁したように、あくまでも「経営者が判断」することであって民営化された郵政会社の大株主が経営者でない限り、一般の国民は口出し出来ないのである。

私なら、国民の共有の財産である350兆円を利回りの良い外国に投資（＝戦費）するよりも、日本国民の健康や福祉、道路や学校教育、環境保全に投資する。

大衆迎合的な「官から民へ」「改革を止めるな」という単純なワンフレーズを聞くにつけ、私がこれまでの人生で約10年間生活した第二の故郷のドイツを思い出す。戦前のドイツは1933年1月末にアドルフ・ヒトラーがフォン・パーペン前首相やメデア王のフーゲンベルクらと協働して連立政権の首相に就任した。その後、全権委任法の導入などや古くからの同志のエルンスト・レーム、シュライヒャー元首相などの暗殺、ヒンデンブルク大統領の死去を通じて総統という独裁者の地位にのぼりつめた。ナチス政権がまがりなりにも13年間も持ちこたえたのは、改革の成果

城内 実（きうち・みのる）



昭和40年、静岡県生まれ。東京大学教養学部卒業後、外務省に入省。在ドイツ日本国大使館、天皇陛下、総理等のドイツ語通訳官を務め、平成14年退官。翌15年に衆議院議員初当選。党改革実行本部幹事等を歴任するが、17年の衆議院選挙で748票差で惜敗。18年に拓殖大学客員教授に就任、現在に至る。

は全てナチスのおかげ、うまくいかない改革は全て「抵抗勢力」のユダヤ人のせいにしたからである。いんちきな「構造カイカク路線」と同じ手法である。

私が徹底的につぶされた理由は、某政権中枢から頼まれて出来レースの人権擁護法案（＝人権侵害糾弾「特高」法案）に徹底的に反対したこと、郵政民営化売国法案に本会議の採決で一番はじめに青票（＝反対票）を投じたからである。

また、平成17年6月7日の郵政民営化特別委員会において竹中大臣に対して、「郵政民営化について日本は米国と過去1年間に何回協議したか」と一番触れられたくないことを質問したこととも関係している（答17回）。

私は最近、構造カイカク路線のことを、オウム真理教やイスラム原理主義をもじって、「カイカク真理教」「カイカク原理主義」と呼ぶことにしている。無辜の民に「カイカク」「カイカク」とお題目を唱えさせて、お布施（＝国民負担）をふんだくる怪しい新興宗教と同じ手法だからである。関岡英之氏などは英語で「改革」のことを「reform（＝リフォーム）」というので、「リフォーム詐欺」と名付けた。

いずれにせよ、21世紀は、これまでの行き過ぎたモノ、カネ、パワー、軍事力中心の物質文明から、心、たましい、健康、人と人との信頼関係、家族愛、郷土愛、世界人類の平和、地球環境といった目に見えないものの、市場原理主義では説明できないものにより尊重される時代となろう。日本古来の共存共栄、共生、和の精神を今こそ見直すべきである。